

Native Place of Streetcar

市電のふるさと

NO.16

2006



〈市電の会賛助会員 野村耕一氏撮影〉

Head Line

もくじ

- 1 ● 中央区の取り組み
- 2 ● 市電フェスティバル
- 3～5 ● トピックス
- 6 ● ニュース
- 7 ● おしらせ

中央区の取り組み

市電の会賛助会員交流会を実施

市電の会では、市電活用の取り組みとして、中央区と連携して、市電と沿線の魅力を掘り起こす事業に着手することとしています。その一環として、賛助会員の交流の機会、意見交換の場を設けるとの趣旨から、平成18年3月26日(日)に市電の会賛助会員交流会を発足。賛助会員や関係者41名が参加しました。

当日は、交流会と懇親会の2部構成で行われ、それぞれ次の内容でした。

(1) 交流会(電車事業所3階会議室)

- ・開催挨拶(市電の会 吉中会長)
- ・「市電と沿線の魅力掘り起こし事業」の説明
- ・さつぼろを元気にする路面電車検討会議の検討状況説明
- ・質疑応答
- ・ミニワークショップによる意見交換

(2) 貸切電車に乗っての懇親会

- ・「市電を元気にするために私ができること」をテーマに、参加者自己紹介
- ・参加者による「私を知っているとっておきの沿線の魅力、スポット」を交えながら、郷土史家・鈴木仁氏による沿線案内

特にミニワークショップでは、①市電を元気にするためこんな取り組みを！ ②「市電の会」としてこんな取り組みを！ ③市電の会会報「市電のふるさと」第16号にこんなことを載せては！ の3テーマについて行われ、①につ



交流会

いてはパルクアンドライドの実施、路線の延伸など、②については市電の魅力を子供たちに伝える、市電の会号の運行など、③については名所紹介、市電の思い出話など、賛助会員の方々から様々な提案がなされ、市電に対するそれぞれの思いを実感させるものとなりました。

「市電と沿線の魅力掘り起こし事業」が平成18年度区の個性あふれる提案事業に決定!!

元気なまちづくり支援事業の更なるレベルアップを図るため今年度から実施される「区の個性あふれる提案事業」に、「市電と沿線の魅力掘り起こし事業」が認められました。この事業は、地域住民・企業・NPO・行政の連携により市電に関するエピソードや沿線の歴史、文化などの魅力を掘り起こし、中央区民にわがまちを再認識していただくとともに、市民や観光客などにも広く市電を利用してもらうというものです。この事業成功のために、市電の会会員の皆様方にも是非知恵を出し合っていたいだきたいと思っておりますので、ご協力をよろしくお願い致します。

市電一日乗車券

「どサンこバス」発売中

市電一日乗車券「どサンこバス」(300円)が市電車内、大通定期券発売所、交通案内センターで発売されています。「土(ど)曜日サンデー」にこどもと一緒にの意味がこめられた乗車券。発売は土日・祝日で、利用については、発売日当日限り有効。乗車券1枚につき、同伴する小児1名が無料で乗車可能となっています。

また、まいわ山ロープウェイ窓口で「どサンこバス」を提示すると、ロープウェイ往復料金が割引になります。

(割引額)

大人 1,100円
 こども 550円
 こども 450円



※どサンこバス1枚で、大人1人とこども1人が割引の対象となります。
 ※本特典は、どサンこバスのご利用日当日に限ります。

◎「どサンこバス」に関する問い合わせは
 011-8961-2706

◎まいわ山ロープウェイに関する問い合わせは
 011-561-8177まで

市電フェスティバル開催

平成17年9月10日(土)、電車事業所(南21条西16丁目)と隣接グラウンド(南22条西15丁目)で、市電フェスティバルが札幌市交通局、(財)札幌市交通事業振興公社、札幌市中央区の主催で行われました。好天に恵まれ、約9,000人の方が来場し、市電と綱引き、市電と写真撮影、工場見学など様々な催しを楽しんでいました。

市電の会では、賛助会員10名がボランティアとしてこのフェスティバル運営に参加。なつかしの市電写真展や市電の歴史DVDの上映、更には市電の会賛助会員で水彩画作家鈴木周作氏の絵画展を行ったほか、賛助会員募集も行いました。今年度は、8月19日(土)開催予定です。



工場見学



市電と綱引き



キャラクターショー



市電の会



撮影会



露店



ミニつくん

市電の今後のあり方についての検討経過

市電については、昨年2月に存続が決定されました。
 (市電のふるさと第15号掲載)
 以降の検討経過については次のとおりです。

1 「さっぽろを元気にする路面電車検討会議」の設置 (平成17年8月設置)

有識者等13名、市職員3名からなる「さっぽろを元気にする路面電車検討会議」を設置し、札幌市が有識者等から専門的知識や意見をもらい、幅広い議論を行いながら活用方針を策定することとしました。また、その間に路面電車フォーラムを行い、市民の方々に会議の検討状況をお知らせするとともに、市民の方々の声を聞く場としました。

2 さっぽろを元気にする路面電車検討会議第1回会議 (平成17年8月4日)

路面電車の現況・課題と価値・効果の整理を目的に、次の3項目が議題として挙げられました。

- ① 事業継続の方向性
- ② 路面電車利用の現状把握
- ③ 路面電車の価値と効果の整理

この検討会議において、市電を交通機関としてだけとらえるのではなく、まちや市民を元気にする道具としてとらえ直すという方向性が出されました。

3 さっぽろを元気にする路面電車検討会議第2回会議 (平成17年10月4日)

路面電車の価値とその効果を高める基本事項と重点課題の検討を目的に、次の2項目が議題として挙げられました。

- ① 関連する既存資源や計画・事業との連携可能性等

の検討

② 価値と効果を高める重点課題の検討

4 路面電車フォーラム2005 (平成17年11月30日)
 さっぽろを元気にする路面電車検討会議と市民をつなぐ場として設けられました。主な意見は次のとおりです。

- ・ 都心内の移動、まち歩きの手段として活用
- ・ 交通手段から交流のツールへの転換が必要
- ・ 観光という視点から市電の活用を探る
- ・ 路線の延伸が必要

5 さっぽろを元気にする路面電車検討会議第3回会議 (平成17年12月16日)

路面電車の価値とその効果を高める活用・連携方策の検討を目的に、次の2項目が議題として挙げられました。

- ① 既存沿線の活用方策の検討
- ② 都心まちづくりとの連携方策の検討

6 さっぽろを元気にする路面電車検討会議第4回会議 (平成18年2月17日)

路面電車の価値とその効果を高める活用方策の検討が議題としてあげられました。

- ① 既存路線においては、交通事業者だけでなく沿線の住民、商業者、藻岩山の観光業者、NPOも路面電車を活用する。既存沿線の情報を発信し、まち歩きの魅力を高めることで沿線住民以外の市民や観光客などの利用を増やし、沿線地域の活性化や藻岩山観光の振興につなげる。

② 都心部においては、都心商業者、観光業者等が市電を活用する。都心内移動を容易にする手段として

7 今後の予定

市電を活用し、都心部での滞在時間の延長や購買機会の拡大等につなげ、都心部の活性化につなげる。
 これらの議題に関連して、JR札幌駅等への路線延伸、低床電車の導入、歩行空間からの直接乗降の検討などについて議論が行われました。

今後は、さっぽろを元気にする路面電車検討会議で、都心の活力を支える路線のあり方について議論を深め、8月に活用方針をまとめ、それを受けて札幌市として観光・商業者などとの連携や関係機関との協議を重ねながら、市民の意向把握も行ったうえで、平成19年3月に「路面電車事業化計画」を策定することと なっています。



路面電車フォーラム2005

1 さっぽろ市電フォトコンテスト

札幌の市電をモチーフにしたフォトコンテストが行われ、表彰式が平成18年3月18日(土)、西4丁目電停に停車中の車内で行われました。

コンテストは(財)札幌市交通事業振興公社が主催したもので、5歳から78歳まで164点の応募があり、27点が入賞、入賞作は市電の一車両を「ギャラリー電車」として使用し、その中に展示されました。

最優秀賞には、中央図書館前電停で乗車待ちをする乗客の前に市電がゆっくり滑り込んだところを、近くの歩道橋から撮影した作品が選ばれました。

写真提供: (財)札幌市交通事業振興公社



表彰式



理事長賞



審査員特別賞



最優秀賞



優秀賞



優秀賞



優秀賞



電車事業所長賞

Topics 2 札幌LRTの会がパネル展開催

札幌LRTの会主催(後援:市電の会)による、市電の歩みを写真で振り返るパネル展が、平成18年2月18日(土)から28日(火)までの間、紀伊国屋書店札幌本店で開かれました。

「札幌の路面電車 思い出と未来を乗せて」と題したこのパネル展では、札幌駅前通や麻生方面にも運行されていた1950～60年代当時の市電や町の賑わいを写した写真など、約30枚が展示されました。

また、存続が決まった市電の今後のあり方が検討されている中、札幌LRTの会が独自に策定したJR札幌駅などへの延伸案も紹介されるなど、過去を振り返るだけでなく市電の今後のあり方とまちづくりに果たす役割についても考えさせるものとなりました。



Topics 3 ドイツ年電車札幌を走る

平成17年4月～平成18年3月までは「日本におけるドイツ年 2005/2006」とされ、様々なイベント等によりドイツの文化経済等についての情報発信が行われました。その一環として、平成17年11月1日(火)から平成18年2月28日(火)まで、ドイツ年をPRするためのペイント電車が運行されました。

ペイント電車の運行初日には、札幌市交通局電車事業所構内において出発式が行われ、ドイツ大使館のクラウス・フューツェー等書記官、北海道日独協会の鈴木会長、札幌市の加藤副市長によるテープカットの後、市川運転士により初運転が行われました。電車は電車事業所から西四丁目電停まで運行、西四丁目電停ではドイツ年公式キャラクターの Maus 君によるPRが行われ、通行中の方々の注目を集めていました。

折り返し西四丁目電停からは通常運転となりましたが、この電車にご乗車いただいたお客様へはドイツ年を記念して Maus 君グッズなどの記念品が配布されました。市電車内には、ドイツのミュンヘン市(札幌市の姉妹都市です)の素敵な写真が多数載っているポスターも掲示され、ドイツ年のPRに市電が大活躍しました。



News 1 音楽劇「西線11条のARIA」公演

市電西線11条の電停を舞台にした音楽劇「西線11条のARIA」が北海道演劇財団やNPO法人TPSくらぶなどの主催により、平成18年1月7日(土)から14日(土)の期間公演されました。また、この公演は東京でも行われ、市電の道外へのPRに大きな役割を果たしました。

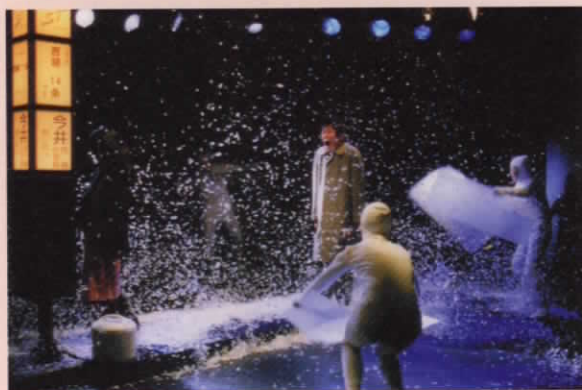
この音楽劇の作・演出を手がけた釧路市出身の斎藤歩さんに制作意図を尋ねると、「市電のある風景は札幌独特の風情である。冬の寒い中で電車を待つ、タクシーでも拾えばいいのに、などと思いつつ、過酷な条件の中でそれに文句も何も言わずに当たり前のこととして生きている独特の風景。また、速いとはいえない市電に乗っている時間は、のんびり過ごせる、ほっとできる時間であり、そういったことを表現したかった。」とのこと。札幌を第2の故郷として愛する斎藤さんは、これからも札幌を舞台にした作品をたくさん作っていきたくてと語っていただきました。

札幌公演では981人、東京公演では222人の観客を集めたこの音楽劇は、大変に好評で、平成19年度中に札幌と東京以外にも会場を増やして再公演を行うこととなっており、市電をよりいっそう広くPRしてくれそうです。

なお、TPSではこれからも様々な公演を企画しています。詳しくは、下記まで。

問い合わせ先:北海道演劇財団 TEL520-0710

ホームページ: <http://www.h-paf.ne.jp/>



News 2 電車事業所前に花が植えられました

平成17年6月24日(金)午後1時30分から、電車事業所前花壇(中央区南21条西15丁目)において、NPO法人あずまし家が運営する小規模作業所®なはは(越田伸哉所長)の通所者と同所スタッフが、アダプトプログラムによる花植え作業を行いました。

これは、平成15年度で活動を終了した「市電の飾花事業」に代わり、同花壇への植栽を実施するもので、同所が植栽や維持管理などの作業を担当することになりました。

強い日差しが照り付ける中、参加者たちは熱心に作業。サルビア、インパチェンス、ペゴニアの花約200株を植えました。連日の陽気で花壇の土が乾燥しており、花が土になじむように、何回も散水を繰り返していました。作業終了後は、早速、立ち止まって花壇を見入る住民の姿も見受けられ、通行人や市電利用者の目を楽しませたようです。



お知らせ

1 傘の無料貸出しを実施

急な雨に見舞われた場合でも安心して市電に乗ってもらおうと、市電の車内での傘の無料貸出しが平成17年6月1日から10月末まで行われました。貸出しに使われた傘は地下鉄駅で忘れ物として届け出られ保管期限を過ぎたものを利用、貸出本数は2,433本で、そのうち1,408本が返却、実に57.87%の返却率であり、当初予想していた返却率30%を大きく超えるものでした。

返却率の高さにより在庫の確保もできること、また、利用者の方々にも好評であったことから、今年は期間を延ばして4月1日から傘の無料貸出しを開始、11月20日まで貸出しを行うこととしています。



お知らせ

2 「市電の会」賛助会員インタビュー

本年3月に行われた「市電の会賛助会員交流会」のミニワークショップでもご意見として寄せられていた、市電に関わる人や賛助会員の方などの紹介のコーナーを設けました。

第1回目は、市電の女性運転手第1号にして市電の会の賛助会員でもあります、横内有香(ようちゆか)さんにお話をお伺いいたしました。

一市電について最初はどのような印象を持ちましたか？

「初めて乗車した時、のんびりした感じでいいなと思いました。」

一なぜ市電の運転手になろうと思ったのですか？

「運転手の募集をしているのを知り、自分も市電の運転をしてみたいと思って応募しました。」

一市電の運転をされていて気づいた点はありますか？

「見た目より意外とスピードがあるので、止まりにくいということと、方向を変えることができないということで、周りを走る車の運転の仕方などを見

ながら、その動きを予想しつつぶつからないようにするのにものすごく集中力を要しました。」

一市電の会の賛助会員になったきっかけは？

「市電フェスティバルで賛助会員の募集をしているのを見て会の存在を知りました。私自身、電車が大好きなのと知り合いの子供が電車関係のグッズが好きで、入会するとバッジとウィズユーザーカードをもらえるということでしたのですぐに会員になりました。」

一市電の会に望むことなどは？

「たとえばマナー向上の取り組みなど、お客様という立場で啓発しあうのが効果的なものもあると思います。そういったことなどやればいいなと思いますね。」

一本日はお忙しいところありがとうございました。



人気車両M101の前で

お知らせ

3 「市電の会」賛助会員募集

市電の会では賛助会員を募集しています。市電の好きな方ならどなたでも入会できます。年会費は、個人1,000円、団体10,000円。会員には会員バッジと特製ウィズユーザーカード「さっぽろ市電歴史シリーズ」(500円)を差し上げるほか、会報「市電のふるさと」をお送りします。

入会をご希望の方は、中央区役所や区内の各まちづくりセンターでお渡しする入会申込書に会費を添えてお申込ください。また、郵便局からの振込もご利用いただけます。(「払込取扱票」(赤色)に口座番号02740-6-94026と加入者名を「市電の会」と記入のうえお振込ください。振込手数料はかかりません。)

さらに、インターネットによる受付も行っています。詳しくは、中央区ホームページの「市電倶楽部」をご覧ください。 URL <http://www.city.sapporo.jp/chuo/>

申込
問合せ

市電の会事務局

札幌市中央区南3条西11丁目 札幌市中央区役所地域振興課(まちづくり調整担当)

TEL (011)231-2400内線253 FAX (011)511-7234